

第1部 チェアサイドとラボサイドの情報共有

より良い臨床のためには、チェアサイドとラボサイド双方の技術とコミュニケーションが大切なことは言うまでもありませんが、実際、その両立はなかなか難しいものです。コミュニケーションを円滑にする手段の一つとして、顔貌、スマイル写真などの画像の共有があげられますが、単に共有するだけでは不十分です。双方がその画像の正しい評価基準を知ることによって情報共有の幅が広がり、臨床の深みも増し、面白くなります。

今回は、正しい画像の評価基準だけでなく、正確な画像を得るためのチェアサイドにおける顔貌・スマイル写真などの撮影方法や、臨床において有用な指標である水平バーの採得方法について、デモンストレーションを行いながら解説したいと思います。

第2部 オールラウンダーを目指すとは基礎の充実！

何ごとにも得手不得手があるように、ともに働く歯科医師にも、もちろん得手不得手があります。歯科医師に補綴分野での不得手があれば、補綴装置製作に携わるプロとして、歯科技工士が歯科医師をサポートすることが重要です。当然ですが、広そうで狭い補綴の世界、全ての知識、技術が相互に関連しているため、歯科技工士に不得手な補綴分野があれば、十分なサポートを行うことはできません。

様々な補綴分野の関連性を明確にし、深めていくためには、基本的な知識・技術（咬合平面の設定基準、排列位置など総義歯の概念や、歯冠形態や咬合接触、咬合様式などのクラウンブリッジの概念など）が土台になってくれます。つまり、オールラウンダーを目指し続けることで足元（土台）がしっかりとし、道がどんどん開けていくと私は考えています。

講演会第2部では、第1部でお話しした顔貌スマイル写真の評価基準を復習しながら、私が大切に思っている補綴の基本的な知識や技術をお話しさせていただきます。

また、応用編ではありますが、私の得意とするインプラント全顎補綴装置製作における排列ポジションから発音調整、材料選択の考え方についても併せてお話しさせていただきます。明日からの臨床にお役立ていただけましたら幸いです。